

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1040 広域農道・農免道路維持管理経費	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
基本施策	49 広域的な道路・交通環境を整備する	目	02	農業総務費
		細目	282	農道維持管理経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	広域農道・農免道路維持管理経費
担当部課	コード	700100	担当者氏名	安岡健司
	名称	大山田振興課		連絡先

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	農免道路を利用する人	※対象件数
成果(どうする)	生活道路を整備し、利便性を高めることにより安全に道路を利用することが出来る。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H21 事業内容	農免道路 須原・富永間の草刈業務委託料	399,000円
	電気代 資材費	36,785円 9,303円
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	445 千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			草刈り業務	回	目標 2 実績 2	目標 2 実績 2

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				事故数	農免道路の維持管理を行うのは、通行の安全性を確保するためであり、交通事故0を目標としている。	件	目標 0 実績 0

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	459	445		36	40			
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0					
一般財源	459	445	36	40				
事業投入人件費 (B)	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.1人 720	0.1人 720				
フルコスト(A)+(B)	1,899	1,885	756	760				

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人(セーフティネット)の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○	
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	市道に移管したい。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 予算の範囲内で事業を行った。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	土永 瑞穂
事業の方向性	【方向性】 他事業と統合 【理由】 主な事業は本庁に移管されたが、事業効率性を考えると本庁に事業を統合したほうが良いと考える。
現時点における課題、その他	本庁に事業を統合する上で本庁と協議が必要
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成22年度までに本庁と事業統合について協議する。